

検 算	設 計

令 和 7 年 度

第 1 2 0 号 舗 装 復 旧 工 事 設 計 書

工 事 番 号	令和7年度 第120号	施 工 年 度	令和7年度
工 事 名 称	第120号 舗装復旧工事		
工 事 場 所	桐生市東三丁目地内（東三丁目集会所付近）		
工 事 日 数	100日間	工事概要 舗装復旧 1,378.9㎡	
担 保 期 間	2年間		
路 線 名	一般県道 小俣桐生線		
工 事 期 間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日		
工 事 日 数	日		
工 事 期 間			
部 課 名	水道局工務課		
合 計 額			
工 事 価 格			
消費税相当額			

本 工 事 内 訳 書

工 事 区 分	工 種	種 別	細 別	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
本工事費								
		舗装復旧		式	1			第 1号内訳書
	小計							
		安全費		式	1			第 2号内訳書
	小計							
	直接工事費計							
	共通仮設費計							
		運搬費		式	1			第 3号内訳書
		共通仮設費		式	1			
	純工事費							
		現場管理費		式	1			
工事原価								
		一般管理費	(契約保証費含む)	式	1			発注者が金銭的保証を必要とする

本 工 事 内 訳 書

[illegible]

間 接 工 事 明 細 書

設 計 条 件					
工 種	舗装工事	工事日数(内冬日数)		共通仮設費対象外額	
場所区分	一般交通影響有り(1)	支給品費		現場管理費対象外額	
前払い率	35%超え	処分費		一般管理費対象外額	
契約保証区分	発注者が金銭的保証を必要とする	処分除外費		支給共仮費対象外額	
積雪寒冷地域	なし				

算 出 基 礎					
---------	--	--	--	--	--

※補正係数を乗じる場合は係数を乗じて、小数3位四捨五入2位止めとする。

$$\begin{aligned} \text{共 通 仮 設 費} &= \text{対象額} \times \text{率} \\ &= \quad \times \quad \% \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{対象額} &= \text{直接工事費} + \text{支給品費} + \text{事業損失防止施設費} - \text{共通仮設費対象外額} - \text{支給共仮費対象外額} + \text{準備費処分費} - \text{処分除外費} \\ &= \quad + \quad + \quad - \quad - \quad + \quad - \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{率} &= \text{対象額による率} \times \text{地域補正係数} \\ &= \quad \% \times \\ &= \quad \% \times \rightarrow \therefore \% \end{aligned}$$

$$\text{対象額による率} = \quad \%$$

$$\begin{aligned} \text{現 場 管 理 費} &= \text{対象額} \times \text{率} \\ &= \quad \times \quad \% \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{対象額} &= \text{直接工事費} + \text{共通仮設費} + \text{支給品費} + \text{支給品費(現)} - \text{現場管理費対象外額} - \text{支給現場費対象外額} - \text{処分除外費} \\ &= \quad + \quad + \quad + \quad - \quad - \quad - \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{率} &= \text{対象額による率} \times \text{地域補正係数} \\ &= \quad \% \times \\ &= \quad \% \times \rightarrow \therefore \% \end{aligned}$$

$$\text{対象額による率} = \quad \%$$

間 接 工 事 明 細 書

算

出

基

礎

$$\begin{aligned} \text{一 般 管 理 費} &= \text{対象額} \times \text{率} + \text{対象額} \times \text{契約保証補正值} - \text{調整額} \\ &= \quad \times \quad \% + \quad \times \quad \% - \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{対象額} &= \text{工事原価} - \text{一般管理費対象外額} - \text{処分除外費} + \text{一般管理補正額} \\ &= \quad - \quad - \quad + \\ &= \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{率} &= \text{対象額による率} \times \text{前払補正} \\ &= \quad \% \times \\ &= \quad \% \times \rightarrow \therefore \quad \% \end{aligned}$$

$$\text{対象額による率} = \quad \%$$

第 1号		舗装復旧					1式当たり	内訳書					
名	称	規	格	単	位	数	量	単	価	金	額	摘	要
舗装版切断		舗装版種別:アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚:15cm以下		m		431.6							
舗装版破碎		舗装版種別:アスファルト舗装版 障害等の有無:無し 騒音振動対策:必要		㎡		240.5							
		舗装版厚:15cm以下											
路面切削		施工区分・平均切削深さ:全面切削6cmを超え12cm以下 段差すりつけの撤去作業:有り		㎡		1,138.4							
殻運搬（路面切削）		DID区間の有無:有り 運搬距離:8.5km以下		m3		113.8							
殻運搬		殻発生作業:舗装版破碎 積込工法区分:機械積込(騒音対策不要,舗装版厚15cm以下) DID区間の有無:有り		m3		9.9							
		運搬距離:10.5km以下											
廃材中間処分費		中間処理アスファルト(再生アスコン工場持ち込み)		m3		123.7							
掘削		土質:土砂 施工方法:上記以外(小規模) 施工数量:標準		m3		1							
土砂等運搬		土砂等発生現場:小規模 積込機種・規格:バックホウ山積0.28m3(平積0.2m3) 土質:土砂(岩塊・玉石混り土含む)		m3		1							
		DID区間の有無:有り 運搬距離:5.5km以下											
不陸整正		補足材料の有無:無し		㎡		1,378.9							
基層（車道・路肩部）		平均幅員:3.0m超 1層当り平均仕上り厚:50mm 材料:再生粗粒度アスコン(20)		㎡		1,138.4							

第 1号 舗装復旧							1式当たり	内訳書
名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要		
	瀝青材料種類:フ°ライムコート PK-3							
表層 (車道・路肩部)	平均幅員:1.4m以上3.0m以下 1層当り平均仕上り厚:40mm 材料:再生密粒度アスコン(13)	m ²	120.7					
	瀝青材料種類:フ°ライムコート PK-3							
表層 (車道・路肩部)	平均幅員:1.4m以上3.0m以下 1層当り平均仕上り厚:50mm 材料:再生密粒度アスコン(13)	m ²	119.8					
	瀝青材料種類:フ°ライムコート PK-3							
表層 (車道・路肩部)	平均幅員:3.0m超 1層当り平均仕上り厚:50mm 材料:再生密粒度アスコン(13)	m ²	1,138.4					
	瀝青材料種類:タックコート PK-4							
区画線工 溶融式(手動) 昼間 豪雪 補正無	実線 15cm 制約無,排水性舗装でない ,供用区間	m	304				白色	第 1号単価表
区画線工 溶融式(手動) 昼間 豪雪 補正無	実線 15cm 制約無,排水性舗装でない ,供用区間	m	7.2				黄色	第 2号単価表
区画線工 溶融式(手動) 昼間 豪雪 補正無	実線 45cm 制約無,排水性舗装でない ,供用区間	m	68				白色	第 3号単価表
計								

[illegible]

[illegible]

第 1号		区画線工 熔融式(手動) 昼間 豪雪補正無					1,000m当たり	単価表
実線 15cm 制約無,排水性舗装でない,供用区間								
名 称		規 格		単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
区画線設置(熔融式) 昼間		豪雪無 実線15cm 制約無		m	1,000			
トラフィックペイント熔融型		3種1号ビーズ 15～18白		kg	570			
ガラスビーズ		0.106～0.850mm		kg	25			
接着用プライマー		区画線用		kg	25			
軽油				L	40			
諸雑費				式	1			
計								
1 m当たり								

第 2号		区画線工 熔融式(手動) 昼間 豪雪補正無					1,000m当たり	単価表
実線 15cm 制約無,排水性舗装でない,供用区間								
名 称		規 格		単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
区画線設置(熔融式) 昼間		豪雪無 実線15cm 制約無		m	1,000			
トラフィックペイント熔融型		3種1号ビーズ 15～18黄鉛・フリー		kg	570			
ガラスビーズ		0.106～0.850mm		kg	25			
接着用プライマー		区画線用		kg	25			
軽油				L	40			
諸雑費				式	1			
計								
1 m当たり								

第 3号		区画線工 熔融式(手動) 昼間 豪雪補正無					1,000m当たり	単価表
実線 45cm 制約無,排水性舗装でない,供用区間								
名 称		規 格		単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
区画線設置(熔融式) 昼間		豪雪無 実線45cm 制約無		m	1,000			
トラフィックペイント熔融型		3種1号ビーズ 15～18白		kg	1,700			
ガラスビーズ		0.106～0.850mm		kg	75			
接着用プライマー		区画線用		kg	75			
軽油				L	73			
諸雑費				式	1			
計								
1 m当たり								

総括

	本線	取付部①	取付部②	合計		備考
施工延長	327.0	45.9	63.2	436.1	m	
既設仮舗装面積	325.4	27.5	36.4	389.3	m ²	
舗装版切断	431.6			431.6	m	
舗装版掘削	1138.4	119.8	120.7	1378.9	m ²	
掘削	16.3	0.6	0.4	17.3	m ³	
残土処分	16.3	0.6	0.4	17.3	m ³	
As運搬	97.6	5.4	4.5	107.5	m ³	
不陸整正	1378.9			1378.9	m ²	
基層（粗粒）	1138.4	-	-	1138.4	m ²	
表層（密粒 4cm）	-	-	120.7	120.7	m ²	
表層（密粒 5cm）	1138.4	-	-	1138.4	m ²	タックコート
表層（密粒 5cm）	-	119.8	-	119.8	m ²	プライムコート
白線 W=45	68.0			68	m	横断歩道、停止線
白線 W=15	304.0			304	m	外側線
黄線 W=15	7.2			7.2	m	消火栓

数量計算書

県道（表層5cm+基層5cm）

	a	b	c	面積
①	3.6	3.6	20.0	72.0
②	3.6	3.6	20.0	72.0
③	3.6	3.6	20.0	72.0
④	3.6	3.6	20.0	72.0
⑤	3.6	3.6	20.0	72.0
⑥	3.6	3.6	20.0	72.0
⑦	3.6	3.6	20.0	72.0
⑧	3.6	3.6	20.0	72.0
⑨	3.6	3.6	20.0	72.0
⑩	3.6	3.2	20.0	68.0
⑪	3.2	3.2	20.0	64.0
⑫	3.2	3.2	20.0	64.0
⑬	3.2	3.2	20.0	64.0
⑭	3.2	3.2	20.0	64.0
⑮	3.2	3.2	20.0	64.0
⑯	3.2	3.2	20.0	64.0
⑰	3.2	3.2	7.0	22.4
⑱	1.0	2.2	10.0	16.0
	合計		337.0	1138.4

As殻

$$1138.4 \times 0.1 = 113.84 \text{ m}^3$$

取付部①（舗装厚5 c m）

	a	b	c	面積
B	1.5	1.5	3.5	5.3
C	3.0	3.0	7.6	22.8
F-1	2.0	2.0	8.0	16.0
F-2	1.5	3.3	10.5	25.2
G	3.1	3.1	16.3	50.5
	合計		45.9	119.8

残土

$$27.5 \times 0.02 = 0.6$$

現仮復旧面積

$$0.6 \times 45.9 = 27.5 \text{ m}^2$$

As殻

仮復旧部

$$27.5 \times 0.03 = 0.8 \text{ m}^3$$

影響部面積

$$119.8 - 27.5 = 92.2 \text{ m}^2$$

影響部

$$92.2 \times 0.05 = 4.6 \text{ m}^3$$

合計

$$0.8 + 4.6 = 5.4 \text{ m}^3$$

取付部②（舗装厚4 c m）

	a	b	c	面積
A	2.8	2.8	12.0	33.6
D	4.0	4.0	1.9	7.6
E-1	1.8	1.8	7.3	13.1
E-2	4.0	4.0	1.9	7.6
H	3.0	2.4	6.0	16.2
I-1	1.0	1.0	2.8	2.8
I-2	2.9	2.9	4.2	12.2
I-3	1.0	1.0	24.5	24.5
I-4	1.2	1.2	2.6	3.1
	合計		63.2	120.7

現仮復旧面積
$0.6 \times 63.2 = 37.9 \text{ m}^2$

As殻
仮復旧部
$37.9 \times 0.03 = 1.1 \text{ m}^3$
残面積
$120.7 - 37.9 = 82.8 \text{ m}^2$
影響部
$82.8 \times 0.04 = 3.3 \text{ m}^3$
合計
$1.1 + 3.3 = 4.5 \text{ m}^3$

残土
$37.9 \times 0.01 = 0.4 \text{ m}^3$

舗装版切断

本線 延長-⑱の延長
$327.0 \text{ m} \times 1 = 328.0$
A 終点のみ
$2.8 \text{ m} \times 1 = 2.8$
B 延長+終点
$5.0 \text{ m} \times 1 = 5$
C 延長+終点
$10.6 \text{ m} \times 1 = 10.6$
D 延長
$1.9 \text{ m} \times 2 = 3.8$
E 終点のみ+歩道部
$1.8 \text{ m} \times 1 = 1.8$
$1.9 \text{ m} \times 2 = 3.8$
F 起終点
$6.8 \text{ m} \times 1 = 6.8$

G 延長+起終点
$22.5 \text{ m} \times 1 = 22.5$
H 起終点
$5.4 \text{ m} \times 1 = 5.4$
I 延長+起終点+変化点
$41.1 \text{ m} \times 1 = 41.1$
合計
431.6

不陸整正 施工幅 1.8未満

B	5.3
I	42.6
合計	47.9

不陸整正 施工幅 1.8以上
$1378.9 - 47.9$
$= 1331.1$

施工条件の明示

工 事 名：舗装復旧工事
工 事 場 所：桐生市東三丁目地内（東三丁目集会所付近）

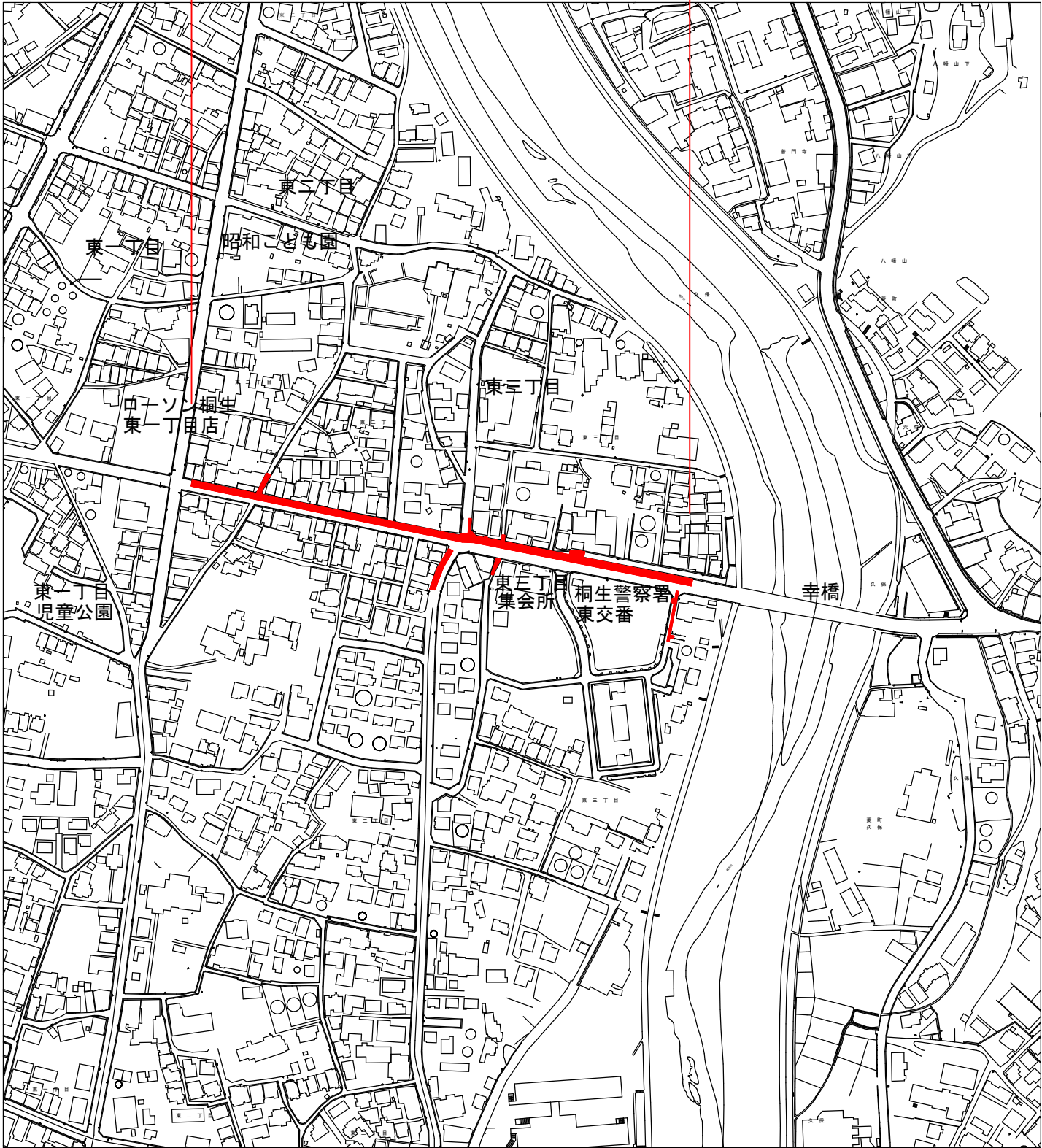
明 示 関 係	明 示 事 項
工 程 関 係	・ 関係機関・地権者と協議し、円滑に工事が進むように努めること。 ・ 本工事は 市道 を 片側交互通行及び一部車両通行止め の交通規制で行うものとする。 ・ 本工事は 県道 を 片側交互通行 の交通規制で行うものとする。 ・ 実施にあたり、施工計画書を提出し、承諾を得ること。 ・ 本工事は桐生ガスとの協調工事のため、日程・施工方法等を密に調整すること。
用 地 関 係	特になし
公 害 対 策 関 係	・ 掘削にあたり関係法令等を遵守するのはもちろんのこと、近隣家屋等について、振動・騒音等は十分に配慮し、施工を行うこと。
安 全 対 策 関 係	・ 本工事の施工に際し、現場に即した安全・訓練等について、工事着工後原則として作業員全員の参加により月あたり半日以上の時間を割り当て、下記の項目から実施内容を選択し安全訓練等を実施するものとする。 (1) 安全活動のビデオ等鑑賞資料による安全教育 (2) 安全工事内容等の周知徹底 (3) 労働安全衛生法、労働基準法、労働安全規則、建設工事公衆災害防止対策要綱等の周知徹底 (4) 本工事における災害対策訓練 (5) 本工事現場で予想される事故対策 (6) その他、安全・訓練等として必要な事項 ・ 本工事の内容に応じた安全・訓練等の具体的な計画を作成し、監督員に提出するものとする。 ・ 安全・訓練等の実施状況を写真等に記録し報告するものとする。 ・ 本工事箇所が通学路になっている場合は、関係機関と打ち合わせを行うものとする。 ・ 交通誘導員は35人を計上している。
工 事 用 道 路 関 係	特になし
仮 設 備 関 係	特になし
残 土 ・ 産 業 廃 棄 物 関 係	・ 本工事から発生する残土の処分地は、協議して確定するものとする。 (運搬距離は5kmを想定している) ・ 建設発生土を100m3を超えて搬出する場合は、「建設工事必携」による「建設発生土の運搬先への情報提供」に基づき、搬出先市町村に情報提供を行う。 ・ アスファルト廃材は再生アスファルト工場（運搬距離 15.6 km）へ搬入すること。なお、運搬に先立ち受入条件等を確認し、監督員に報告すること。 ・ 建設廃材の処理については、「建設工事必携」による建設副産物適正処理推進要綱に基づき処理すること。 ・ 本工事は建設副産物実態調査の対象工事であるので、再生資源利用計画（実施）書（および再生資源利用促進計画（実施）書）について、COBRIS登録により登録証明書を監督員に提出すること。なお、COBRIS登録をしていない場合は、再生資源利用計画（実施）書（および再生資源利用促進計画（実施）書）について、電子データ及び出力票を監督員に提出すること。 ・ 舗装切断作業の際、切断機械から発生するブレード冷却水と切削粉が混じりあった排水（以下「排水」という。）については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収すること。回収された排水については、産業廃棄物として、適正に処理すること。なお、適正な処理をするために必要な運搬費及び処分費については、監督員と協議のうえ、設計変更の対象とする。なお、受注者は、当該処理に係るマニフェストについて、監督員から請求があった場合は提示しなければならない。
工 事 支 障 物 件 関 係	・ 施工箇所に埋設物がある場合、破損させないように充分注意すること。
塩 化 物 ・ アル 骨 反 応 対 策 関 係	・ コンクリート中の塩化物の総量規制に対する費用を含む。 ・ コンクリート中の塩化物総量規制に対する試験は打設現場にて行うこと。
そ の 他	・ 本工事は、群馬県土木工事標準仕様書及び建設工事必携を遵守すること。 ・ 別紙共通事項による。

共 通 事 項

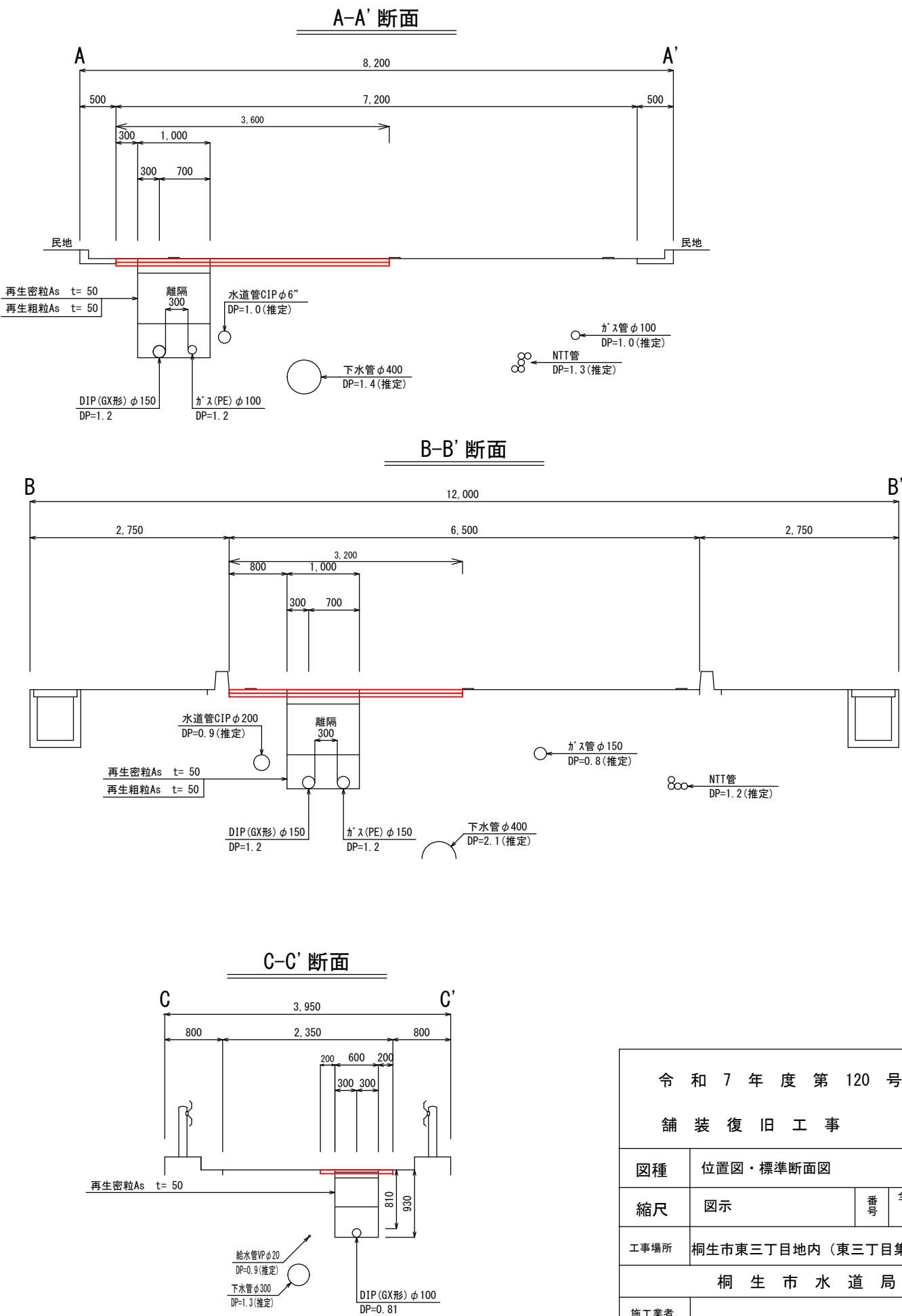
1. 有資格者の配置	配水管工事従事者の 資格要件	① 水道配水用ポリエチレン管の配水管工事の際、元請業者の現場代理人、主任技術者、監理技術者又は配管工事従事者のいずれかに資格を有する者を配置するものとし、配水管布設中は有資格者が施工管理を行うこと。 (有資格者とは、水道配水用ポリエチレン配管施工講習受講証又はメーカー主催の施工講習会修了証を所有する者とする。) ② NS・GX形ダクタイル鋳鉄管(φ450mm以下)の配水管工事の際、元請業者の現場代理人、主任技術者、監理技術者又は配管工事従事者のいずれかに資格を有する者を配置するものとし、配水管布設中は有資格者が施工管理を行うこと。 (有資格者とは、日本ダクタイル鉄管協会の継手接合研修会受講証NS形(φ450以下)又は(社)日本水道協会の配水管技能者登録証(一般継手・耐震継手)を所有するものとする。) ③ NS形ダクタイル鋳鉄管(φ500mm以上)の配水管工事の際、元請業者の現場代理人、主任技術者、監理技術者又は配管工事従事者のいずれかに資格を有する者を配置するものとし、配水管布設中は有資格者が施工管理を行うこと。 (有資格者とは、日本ダクタイル鉄管協会の継手接合研修会受講証NS形(φ500以上)又は(社)日本水道協会の配水管技能者登録証(大口徑)を所有するものとする。)
2. 工事の監督	技術者による 布設工事の監督	工事の材料検査・管布設指導監督・水圧試験・洗管作業は、監督員に従い、誠実かつ適正に施工しなければならない。
3. 工事実績の登録	工事カルテ	① 請負者は、受注時または変更時において工事請負金額が500万円以上の工事について、実績報告システム(CORINS)に基づき(財)日本建設情報総合センター(JACIC:ジャシック)に登録しなければならない。 ② 工事請負金額が500万円以上の工事にあつては、工事受注・変更・完成時に工事実績情報として「工事カルテ」を作成し監督員の確認を受けたうえ、受注時は契約後10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に(財)日本建設情報総合センターに登録しなければならない。また、(財)日本建設情報総合センター発行の「工事カルテ受領書」が届いた場合は、その写しを直ちに監督員に提出しなければならない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。
4. 工事等	管路の操作 バルブの開閉操作	- 工事の施工にあたり断減水、通水洗管作業を行う時は、事前に監督員と十分な打合せを行い、事業所及び住民等に日時(時間帯)を事前に連絡し、工事に対する理解を求めて施工すること。 - 給水管接続替作業については所有者または使用者に了解を求めてから施工すること。 - 請負業者は、仕切弁等の開閉作業をしてはならない。ただし監督員との事前協議の上、監督員の指示に基づき開閉操作をすることができる。
5. 舗装工事に係る品質管理について	路盤密度の測定 舗装コアの抜き取り 表層密度の測定	・ 1,000㎡以上の工事については建設工事必携の品質管理基準のとおりとする。 ・ 1,000㎡未満の工事については1箇所測定すること。 ・ 測定位置は監督員の指定した位置とする。 舗装平積 ・ 1,000㎡未満 <u>1箇所以上</u> ・ 1,000㎡以上2,000㎡未満 <u>2箇所以上</u> ・ 2,000㎡以上 <u>3箇所以上</u> * なお、10,000㎡以上について建設工事必携の検査基準のとおりとする。 * 検査の位置指定は無作為指定位置とする。 * 上記を原則とするが、これによりがたい場合は別途協議すること。

位置図 S=1/2, 500

施工箇所



標準断面図 S = 1 : 50 (A2)



令和 7 年 度 第 120 号			
舗 装 復 旧 工 事			
図種	位置図・標準断面図		
縮尺	図示	番号	全 4葉の内 1号
工事場所	桐生市東三丁目地内（東三丁目集会所付近）		
桐 生 市 水 道 局			
施工業者			

平面図① S=1/500

ローソン

平面図②へ

No.0

No.1

No.2

No.3

No.4

No.5

No.6

No.7

No.8

No.9

No.10

No.11

No.12

舗装工 A=1138.4㎡ (t=100)

A 舗装工 A=33.6㎡ (t=40)

C 舗装工 A=22.8㎡ (t=50)

D 舗装工 A=7.6㎡ (t=40)

E 舗装工 A=20.7㎡ (t=40)

B 舗装工 A=5.3㎡ (t=50)

H 舗装工 A=16.2㎡ (t=40)

G 舗装工 A=50.5㎡ (t=50)

東三丁目集会所

令和7年度第120号

舗装復旧工事

図種 平面図①

縮尺 図示

番号 全4葉の内
2号

工事場所 桐生市東三丁目（東三丁目集会所付近）

桐生市水道局

施工業者

平面図② S=1/500

舗装工 A=1138.4m² (t=100)

F 舗装工 A=41.2m² (t=50)

No. 12

No. 13

No. 14

No. 15

No. 16

No. 16+7, 0

東交番

幸橋

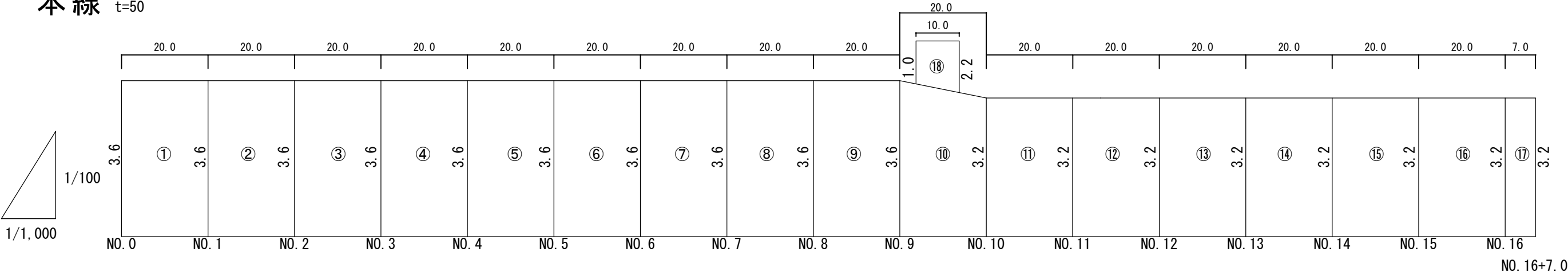
I 舗装工 A=39.5m² (t=40)

令和 7 年 度 第 120 号			
舗 装 復 旧 工 事			
図種	平面図②		
縮尺	図示	番号	全 4葉の内 3号
工事場所	桐生市東三丁目（東三丁目集会所付近）		
桐 生 市 水 道 局			
施工業者			

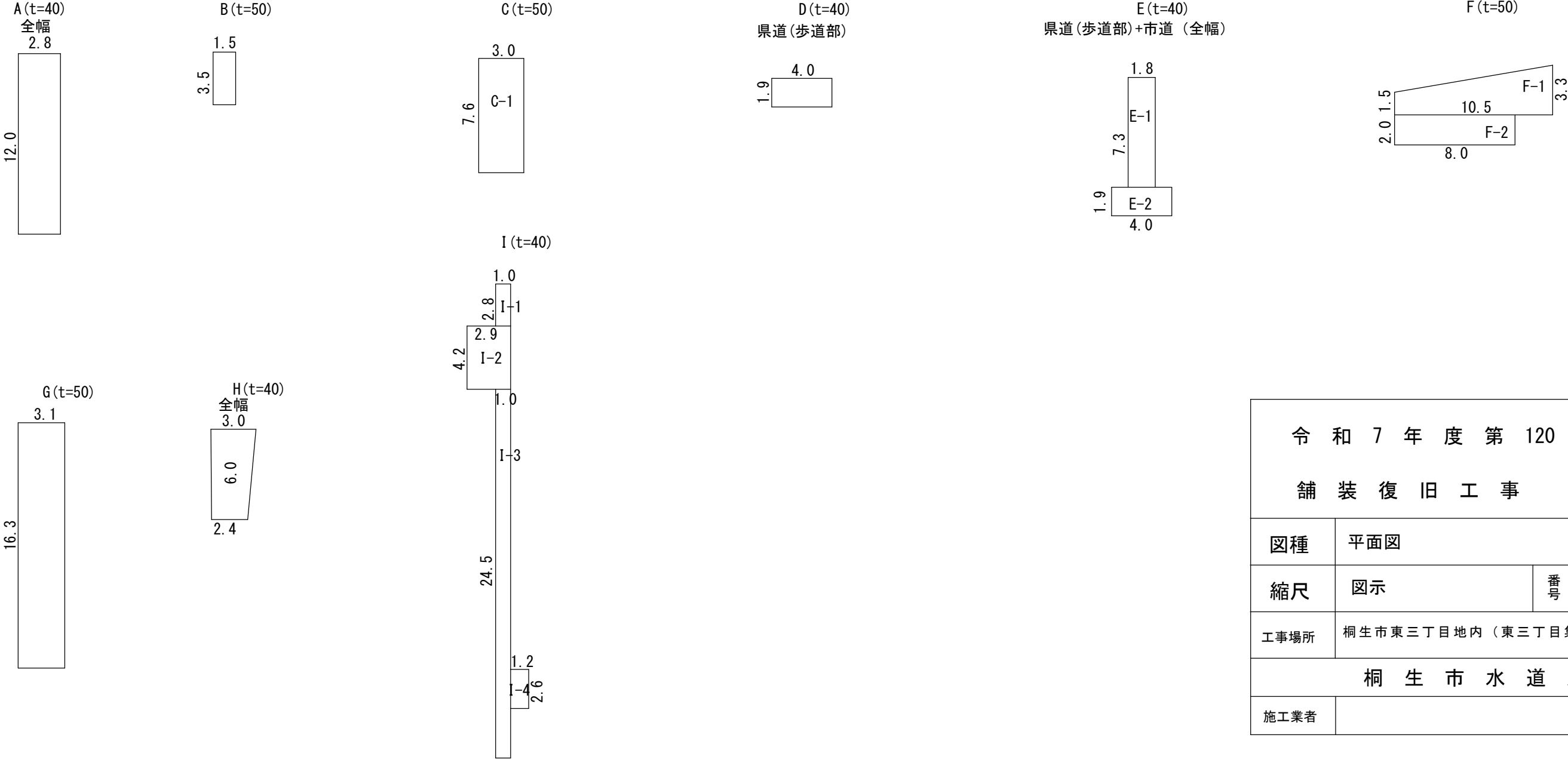
図種	平面図②		
縮尺	図示	番号	全 4葉の内 3号
工事場所	桐生市東三丁目（東三丁目集会所付近）		
桐 生 市 水 道 局			
施工業者			

舗装展開図

本線 t=50



取付部 1/300



令和 7 年 度 第 120 号			
舗 装 復 旧 工 事			
図種	平面図		
縮尺	図示	番号	全 4葉の内 4号
工事場所	桐生市東三丁目地内（東三丁目集会所付近）		
桐 生 市 水 道 局			
施工業者			